

ICT機器の効果的な活用

「個別最適な学び」の充実に当たっては、ICT機器の活用により、子どもたちの学習到達度等に応じて、柔軟に対応したり、子どもたちの興味・関心等に応じた学習課題等に取り組む機会を提供したりすることができます。

また「協働的な学び」の充実に当たっては、ICTの活用により、空間的・時間的制約を超えた交流を生み出すことができるようになり、同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他校の子どもたちとの学び合いも可能になります。私たちがこれまで積み重ねてきた授業実践とICT機器の活用について、最適な組み合わせを模索していくことが、今後の課題です。

「クラウドを活用した学びの充実」



求められる資質・能力の育成

それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく

学習者である子どもの視点から

個別最適な学び

協働的な学び

指導の個別化

かかわり合い

学習の個性化

体験活動等

授業改善を進める強力なツールとしてICT機器の効果的な活用

ICT活用事例集 ①②③



～ 授業改善、進んでいますか？ ～

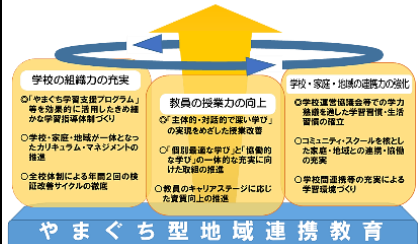
自分の授業を振り返るときや、他の先生の授業を見るときに、下の視点を活用しましょう。

□	単元構想	その単元(題材)構想は、子どもたちにとって、授業間のつながりを意識しながら、自らの成長を実感できる学びのまとまりを生み出していますか？
□	振り返り	子どもたちから引き出したい振り返りを、具体的に想定することから授業づくりを始めていますか？
□	めあて	そのめあては、子どもたちにとって、見通しをもって学びに向かうための「めあて」になっていますか？
□	学習活動	その学習活動は、子どもたちを、授業のゴールに確実に導くための活動になっていますか？
□	発問	対話的な授業とするために、子どもたちが自己と向き合い、学びを広げたり深めたりすることができる発問になっていますか？
□	板書	その板書は、子どもたちにとって、学習課題を解決するとともに、学びを振り返るための手がかりとなる板書になっていますか？
□	評価	その授業で身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかどうか確認しましたか？

山口県の学力向上の三本柱

山口県では、「未来を拓く たくましいやまぐちっ子の育成」という教育目標を掲げ、その実現に向けて、「学校の組織力の充実」「教師の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」という柱に沿った取組を進めています。

これからの時代に求められる資質・能力の育成



やまぐち型地域連携教育

検証改善委員会からの提言



授業づくりと評価の手引き[改訂版]



授業づくりガイド

全ての子どもたちの可能性を引き出す
個別最適な学びと協働的な学びの
実現をめざして
「令和の日本型学校教育」



<授業づくりガイドの活用について>

わたしたち教員の仕事は、子どもたちの現在と未来に直接関わるかけがえのない仕事です。

その教員の仕事の核となる日々の授業づくりについて、全ての先生方と共有しておきたい基本的な内容をまとめたのが、授業づくりガイドです。

各項目に掲載している二次元コードを読み取ることで、さらに詳しい内容の資料にアクセスすることができます。いつも手元において、積極的に活用してください。

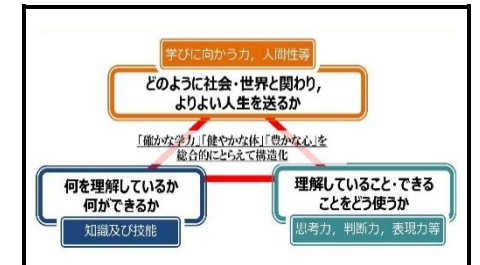
今、求められている学びとは

急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、子どもたち一人ひとりが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

求められる資質・能力を育成するための学校教育の拠りどころとなるのは、学習指導要領です。

平成29年3月告示の学習指導要領では、子どもたちが未来を切り拓くために求められる資質・能力が、以下の3つの柱で整理されています。

【求められる3つの資質・能力】



各学校においては、これらの資質・能力を社会と共有し、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という理念を実現するためのカリキュラム・マネジメントが求められています。

山口県では、「社会に開かれた教育課程の視点をもとに、学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム」として、『学校・地域連携カリキュラム』の作成及び活用を推進しています。中学校区ごとに作成することを基本とし、**求められる資質・能力**の育成につながる教育活動の充実をめざしています。

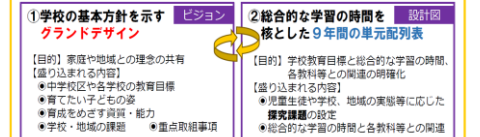
手引き「理論編」



手引き「実践編」



学校・地域連携カリキュラム



令和5年9月
山口県教育委員会

～子どもたちの思いや願いを大切に、求められる資質・能力を育成する授業を！～

【見通しを示す「めあて」】◆

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもたちが主体的に学びに向かう姿勢をもつことが必要です。

子どもたちは、期待と不安の気持ちをもって、授業の始まりを迎えています。
授業者は、子どもたちが授業のゴールを自覚し、見通しをもって学びに向き合うことができるような「めあて」を設定しましょう。



見通し

【主眼達成のための学習活動】◆

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもたちが、目的意識をもって学習活動に参加することが必要です。

子どもたちは、準備された活動を楽しむことに夢中になってしまいがちです。
授業者は、子どもたちが、教科等の「見方・考え方」を働かせながら、主眼にたどり着くことができる学習活動を準備しましょう。活動のはじめに、その目的を子どもたちと共有することも大切です。



見方・考え方

【引き出したい「振り返り」】◆

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもたち自身が、自分の学びの意味や価値を実感することが必要です。

子どもたちは、授業での学習を通して、分かることやできることを増やしたいと願っています。
授業者は、主眼を踏まえた上で、引き出したい「振り返り」を具体的な子どもたちの言葉で想定することから、授業づくりを始めましょう。授業の終末に「振り返り」のための時間をしっかり確保しましょう。さらに、「振り返り」が単なる感想だけに留まることのないように、状況に応じて、助言したり価値付けたりしましょう。子どもが表現した「振り返り」を全体で共有することも大切です。



振り返り手順

めあてと振り返りを関連づける

【大きなまとまり [= 単元 (題材)] で指導と評価の一体化を図る】●

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもたちが、既習内容を生かしたり、次時とのつながりを意識したりしながら学習に臨むことが必要です。

1時間の授業だけで、子どもたちが劇的に変化することはありません。1時間の授業を通して見える変化は小さいため、子どもたちにとって、自分自身の成長を実感することは難しいと考えられます。

授業者は、大きなまとまり [= 単元 (題材)] で学習及び評価の計画を立てましょう。それぞれの授業が、単元においてどのような役割をもっているのか、常に意識しましょう。授業者は、子どもたちが授業同士のつながりを意識することができるように働きかけるとともに、単元 (題材) 末の評価で子どもたちの学びの成果を確認しましょう。

指導と評価の一体化



【板書型指導案の例】…「板書型指導案」は、日々の授業改善に有効です

小学校第3学年国語学習指導案
単元 筆者の説明の仕方をもとに、スーパーマーケットの工夫を説明しよう～「すがたをかえる大豆」～ (木時6/8)

本時は、スーパーマーケットの見学を通じて発見した工夫を説明するという単元に位置付けられた授業です。

<p>課題 ダイズを取り入れる時期や育て方の工夫が、五つある工夫の最後に述べられていることの長所について対話することを通して、段落の順序に込めた筆者の意図を捉え、スーパーマーケットの工夫の説明に生かすことができる。 引き出したい振り返り 「これらのほか」という言葉から、筆者の国分さんが枝豆もやしという事例を最後に述べて述べているように感じました。こんな工夫まであってすごいということを感じて、この「華やかな文におどろかされます」という主張を強く伝えたいのだと思います。わたしも、スーパーの店外の工夫を最後に説明して、店員さんのお客さんのためにしている工夫のすごさを伝えたいです。</p>	<p>国分さん 国分さんは、枝豆もやしという事例を最後に述べて述べているように感じました。こんな工夫まであってすごいということを感じて、この「華やかな文におどろかされます」という主張を強く伝えたいのだと思います。わたしも、スーパーの店外の工夫を最後に説明して、店員さんのお客さんのためにしている工夫のすごさを伝えたいです。</p>	<p>枝豆もやし 枝豆もやしという事例を最後に述べて述べているように感じました。こんな工夫まであってすごいということを感じて、この「華やかな文におどろかされます」という主張を強く伝えたいのだと思います。わたしも、スーパーの店外の工夫を最後に説明して、店員さんのお客さんのためにしている工夫のすごさを伝えたいです。</p>
<p>振り返り ◎読み深めた筆者の意図やスーパーマーケットの説明の順序について振り返らせる。 T 国分さんは、段落の順序をどのように工夫していると思ったか。また、スーパーマーケットの工夫を、どのような順序で説明したいか。 ◆スーパーマーケットの説明について自分の考えがもたない子どもには、段落の順序とその意図とを交流させることで、伝えたいことに合う順序になっているかを吟味できるようにする。 ・伝えたいこと、段落の順序とのつながり</p>	<p>解決 ◎枝豆もやしの工夫を最後に述べている筆者の意図について話し合う場を設定する。 T 筆者の国分さんが伝えたいことは何か。 ① 枝豆もやしもダイズであることを知ったときの感想を交流させることで、筆者が段落の順序を工夫した意図を吟味するきっかけとなるようにする。 ・昔の人々の知恵に対する筆者の意見 ・段落の順序に込めた筆者の意図</p>	<p>学習のきっかけ ◎大豆が姿を変える過程を比べ、段落の順序についての気付きを交流させる。 T どのような順序で、説明されているか。 ① 絵カードを用いて、姿を変える過程を黒板上で整理させることで、食品ごとの順に気付くことができるようにする。 ・姿を変える過程の違い</p>

◎評定 ●つまずきに対する支援・学習印刷
★説明文の授業は、説明されている内容だけでなく、説明の仕方捉える授業に！

【子どもの思考を促す「発問」】★

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもたちが、授業者である教員や仲間とともに学びを深める喜びを味わう経験をする必要があります。

子どもたちは、授業で示された課題について、自分たちなりの解決にたどり着くと、そこで満足してしまいがちです。

授業者は、授業を支える「発問」を考える際に、一つひとつの「発問」の質にこだわるとともに、複数の「発問」の組合せにより、子どもたちを一層深い学びへと導きましょう。

【学びの履歴となる板書】◆

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもが自分たちの学びを客観的に振り返るための手がかりとなる板書が必要でです。

授業では大量の情報が行き交っており、とまどいを感じてしまう子どもも、多くいます。
授業者は、学習内容を整理し、子どもたちの理解を助ける、分かりやすい板書に努めましょう。板書には、実際の子どもの発言を積極的に取り入れましょう。

授業と家庭学習をつなぐ

【学びに向かう姿勢を育む家庭学習】

求められる資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもたちが、授業の内容とつながる家庭学習を行う必要があります。

家庭学習は「やらされるもの」と思い込み、意欲的に取り組むことが難しい子どもも多くいます。

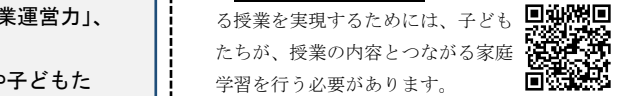
授業者は、授業とのつながりを実感できる家庭学習になるよう、働きかけを工夫しましょう。習慣化するまでは、具体的なアドバイスや進捗管理が必要です。「やまぐち学習支援プログラム」も、有効なツールになります。

～ 日々の授業実践や授業参観を通じて、「授業力」を向上させる ～

教員に求められる「授業力」には、さまざまな側面があります。特に、「授業構想力」「授業運営力」、そして「授業改善力」の向上を図ることが重要です。

- 「授業構想力」・・・主に授業前に必要とされる力。学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材や子どもたちの分析・解釈に基づいて授業を構想し、指導計画を立てる力。
- ★「授業運営力」・・・主に授業中に必要とされる力。子どもたちの発言に対する問い返しなど、実際の授業における状況を受け止めながら、柔軟に対応する力。
- ◆「授業改善力」・・・主に授業後に必要とされる力。自分の授業を客観的に振り返り、よりよい授業に向け課題を洗い出し、改善につなげていく力。

これらの授業力を向上させるためには、授業者の学び続ける姿勢が不可欠です。一人ひとりが自分を磨き続けるとともに、校内で日常的に授業参観を行い、互いに助言し合うなど、よりよい授業をめざして共に学び、実践を重ねていきましょう。



やまぐち